

東の平田家文書展 I

八木町の近世・近代文類

日時：令和4年3月11日(金)～13日(日)

場所：八木札の辻交流館 2階 (橿原市北八木町2丁目1番1号)

主催 NPO 法人 八木まちづくりネットワーク

「東の平田家文書展」に寄せて

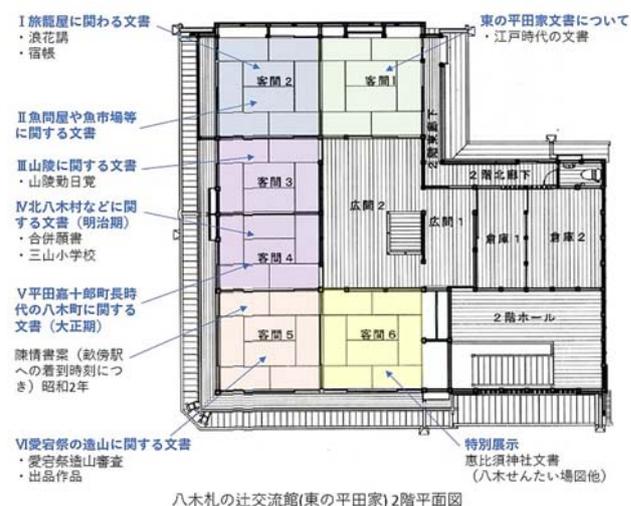


嘉永元年(1848)に刊行された『西国三十三所名所図会』には、八木の「札の辻」の図が掲げられた一頁がある。「札の辻」の名は、中街道(吉野往還)と初瀬街道(大坂往還、伊勢往還)とが交差する場所に高札場があったことに由来し、この図にも高札場が中央に描かれている。交通の要衝であり、「伊勢参宮」「大和巡り」「西国順礼」の旅人が行き交った八木には、江戸後期に「家作ひろく端麗」な旅籠屋が10軒近く存在したが、その代表格といえるのが木原屋であった。「札の辻」の図の正面上方に描かれている二階建ての旅籠屋が木原屋で、現在の「八木札の辻交流館」にあたる。同じく旅籠屋であった「西の平田家」(高札場の左側に描かれている)に対して「東の平田家」と称され、江戸後期には当主が嘉右衛門を名乗ったことから「八木嘉」「辻嘉」と呼ばれることもあった。

そうした当家には、数多くの文書が伝えられてき

た(寄贈により現在では橿原市の所蔵となっている)。長らく八木の文化財の調査と保存に尽力されてきた「八木まちづくりネットワーク」からの要請により、森本修平氏とともに実施した調査にもとづいて、2015年3月に作成した「東の平田家(旧旅籠)歴史資料調査目録」によれば、当家の文書の総点数は2268点を数える。最も古いのは明和4年(1767)の家屋敷の年季売証文で、江戸後期以降の当家の生業や当主の役務に関わる特色ある文書が見られる。

その第一は、旅籠屋に関わる文書である。宿泊者が記された文書は、残念ながら「明治二十一年止宿届控」のみであるが、天保10年(1839)の聖護院宮の入峯時に「本陣」をつとめた際の文書や、「大坂浪花講」の「御定宿」が記された「伊勢道中記」などが残っている。「浪花講」は文化元年(1804)に大坂玉造の商人松屋甚四郎の手代源助が発起人となり組織された旅籠屋組合で、「伊勢道中記」には「御定宿」(安心して泊まれる指定宿)として、八木の「木原や 嘉右衛門」の名前も見られる。また、天保12年(1841)に大和の広範な村々の百姓たちが結束し、大坂から大和川を遡行して金肥などを運んでいた剣先船仲間を相手取って訴訟を行った際に、各所領惣代らの会合の場として、八木の木原屋がしばしば利用されていたことも知られる。



第二は、当家が兼営していた魚問屋や魚市場、生

果運送に関する文書群である。前者については、明治2年(1869)以降の文書が残っているが、『西国三十三所名所図会』にも「毎朝札幌の傍において魚市あり」という関連記事が見られる。また、後者に関しては、平田嘉十郎が組合長をつとめていた「大和生果運送取扱組合」に関する文書が多く残っている。

第三は、山陵に関する文書で、慶応4年(1868)正月の「山陵勤日記」がこれにあたる。当時の当主であった嘉右衛門が、「文久の修陵」後に「神武陵」の守戸を勤めるようになっていたことによるものである。また、昭和2年(1927)の「神武陵」への行幸に関する文書も見られる。

第四は、地元である北八木村などに関する明治前期の文書群である。当主であった平田嘉十郎が惣代や村会議員をつとめていたことにより残ったもので、明治20年(1887)前後の北八木村の行財政に関する文書をはじめ、同16年の「北八木村札之辻人力車夫」に関する文書、同20年の「悪病流行」や「衛生談話会」、同21年から翌年にかけての(南)八木村との合併問題、三山小学校に関する文書などが見られる。

第五は、平田嘉十郎が町長をつとめていた大正期の八木町に関する文書群である。米騒動の発生を防ぐため、大正7年(1918)に当町が実施した台湾米・内地米の購入と廉売、難渋人に対する賑恤金の配布に関する一連の文書をはじめ、その前後に実施された伝染病舎の増築、火葬場の建築、製繭販売所の設置、警鐘台の建設、町役場の新築などに関する文書が伝存している。

第六は、愛宕祭の造山に関する文書で、平田嘉十郎が八木実業協会の会長をつとめていたことにより残ったものである。

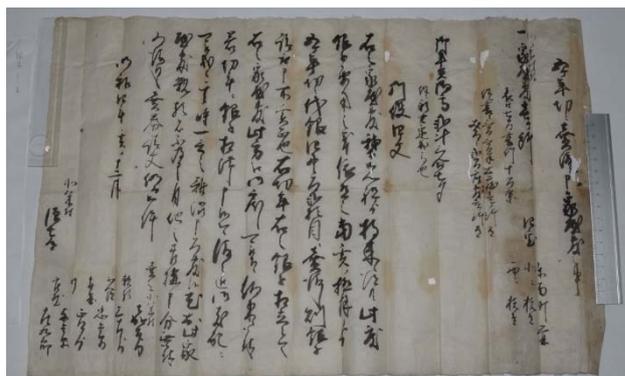
以上のほか、明治20年(1887)の「[八木村にて「浮レ節」挙行認可書]」、同21年(1888)の「[宇陀川分水工事費之件に付召喚回章]」、同24年の「[地価修正請願に付調印依頼状]」、同29年の「大和鉄道発起付為取換約定証」、同30

年の「望遠館」の建築に関する文書、第二次世界大戦時の昭和18年(1943)「徴用諸事控」、同19年の「鮮魚介類配給数量日報控」なども注目される。

このたび、「八木まちづくりネットワーク」の方々のご尽力により、「東の平田家文書展」が開催されることになった。スペースの関係により、展示される文書は限られているが、それらを通して「東の平田家」の足跡を辿りながら、交通の要衝であった八木の近世・近代史についての認識を深めていただければと心より願っている。(元 天理大学文学部教授 谷山正道)

展示概要

最も古い文書について



1-1 明和4年12月 1767 五ヶ年切二売渡シ申家屋敷之事

差出人・記録者 売主北八木村 嘉右衛門
親類 三右衛門
五人組 忠兵衛
年寄 正左衛門 与兵衛
庄屋 庄九郎

受取人 北八木村 源七
備考 物件は北八木村領 家屋敷壹ヶ所 代銀4貫120目にて

1-2 文化13年11月 1816 差入申質物抄證文之事

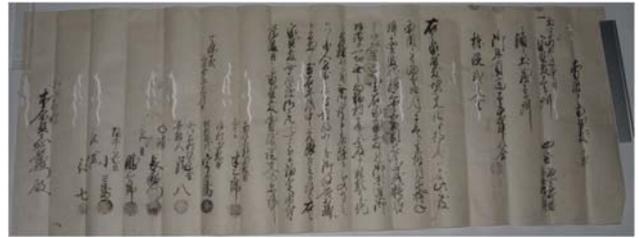
差出人・記録者 十市郡北八木村
置主 嘉右衛門

同村親類 年寄 正左衛門

同村同断 源七

受取人 同村 庄九郎

備考 抵当は 北八木村領札之辻角 家屋敷壹ヶ所 代銀1貫目にて



1-12 欠年 伊勢道中記 大坂 浪花講 御定宿附

1-3 文政4年7月 1821 五ヶ年切ニ売渡シ申家屋敷之事

差出人・記録者 十市郡北八木村 売主 嘉右衛門

高市郡薩摩村 親類 九兵衛

北八木村年寄 弥重郎 源七

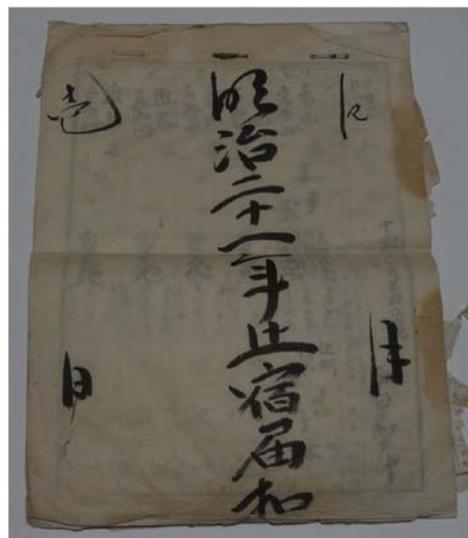
受取人 同村 庄九郎

備考 物件は北八木村領札之辻西角 家屋敷壹ヶ所 別座敷式ヶ所 代銀4貫500目にて



2-4 明治21年4月1日 1888 明治二十一年止宿届控 (宿泊者が記された文書)

受取人 平田嘉十郎



I 旅籠屋に関わる文書

1-32 天保12年12月 1841 売渡申家屋敷之事

差出人・記録者 売主 南八木村 土橋屋半三郎

他 親類惣代・世話人・村役人連名

受取人 北八木村木原屋嘉右衛門

II 当家が兼営していた魚問屋や魚市場、生果運送に関する文書群

1-59-1 明治2年8月20日 1869 差入申并ニ引受証文之事 (魚屋渡世)

差出人・記録者 高市郡八木村 本人 織屋喜助
同郡同村 引請人 大坂屋藤吉

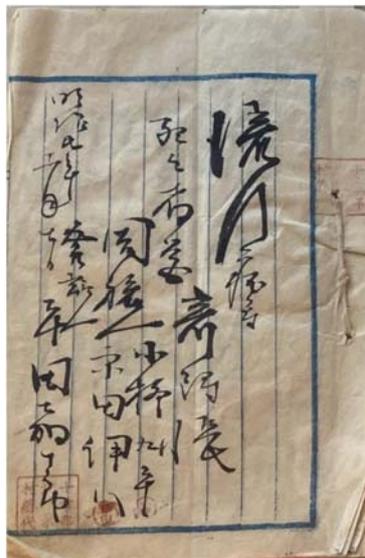
受取人 十市郡北八木村 嘉右衛門

備考 「魚渡世引請証文入」(59-1~9 同袋入)



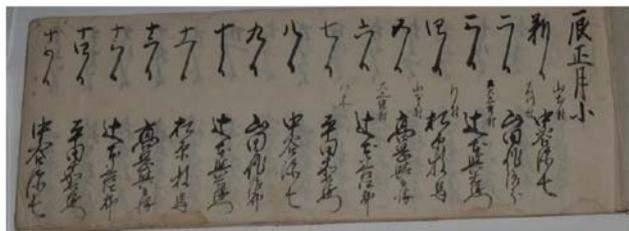
IV 北八木村などに関する明治前期の文書群

10-3-17 明治20年11月7日 1887 流行病ニ付寄附帳



III 山陵に関する文書

1-23 慶応4年正 1868 山陵勤日覚



10-3-1 明治21年10月5日 1888 合併願書

差出人・記録者 高市郡八木村自治惣代 河合正治郎 他4名

十市郡北八木村自治惣代 平田嘉重郎 他3名

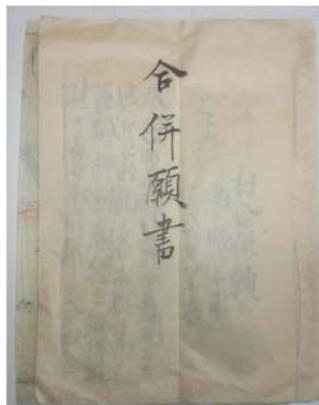
(奥書) 高市郡八木村戸長 民谷吉治郎

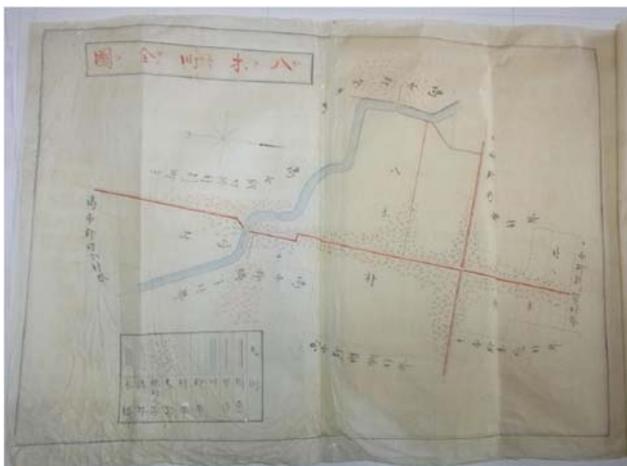
十市郡北八木戸長 河井正親

受取人 奈良県知事子爵税所篤

備考 3-1~は袋入り「明治十三年庚辰年十二月両八木合併ニ付諸類入 北方 惣代 河合小七郎同 平沼徳四郎」

3-1 願書のあとに区域・資力に関する表と「八木町全図」あり





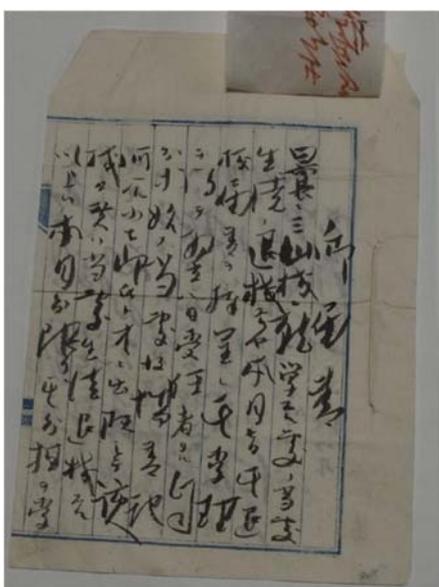
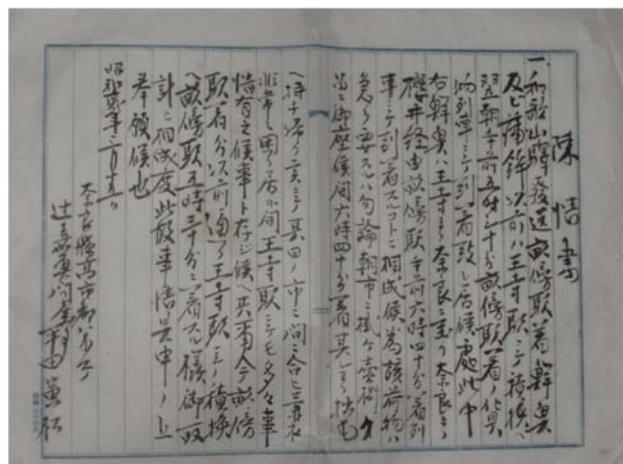
5-185-1 明治22年12月9日 1889 [三山小学校経費完納方に付照会状]

差出人・記録者 十市郡耳成村役場
 受取人 高市郡八木町大字 北八木 議員

V 平田嘉十郎が町長をつとめていた大正期の八木町に関する文書群

9-54 昭和2年3月22日 1927 陳情書 (畝傍駅への着到時刻につき)

奈良県高市郡八木町 魚問屋辻嘉 平田寅松 湊町運輸事務所



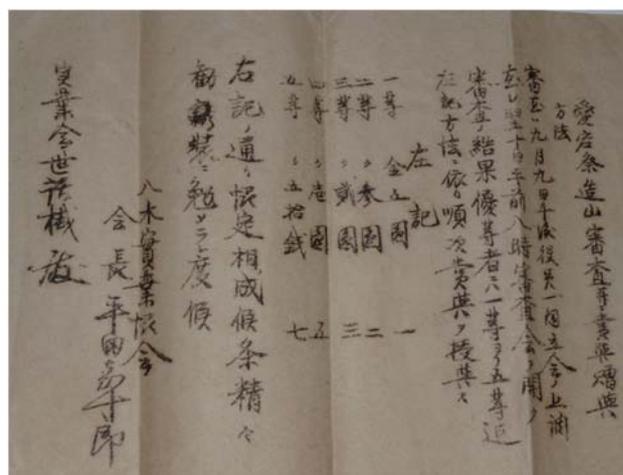
9-65 明治20年4月15日 1887 公立三山尋常小学授業料領収之証

三山尋常小学校 十市郡北八木村 平田ミツ 月額十五銭

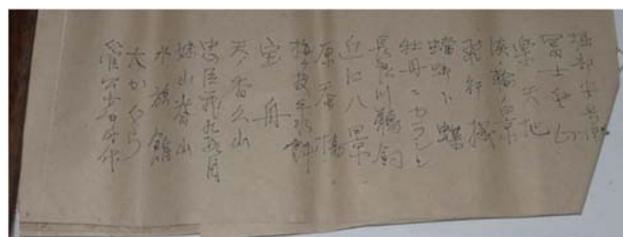
VI 愛宕祭の造山に関する文書

2-6 愛宕祭造山審査并ニ賞与贈与方法

八木実業協会 会長 平田嘉十郎 実業会世話掛 殿



2-30 [愛宕山造山出品目録]



2-30 〔愛宕山造山出品名札〕



NPO からの挨拶

八木札の辻交流館である東の平田家（旧旅籠）は「八木札の辻」の歴史・文化そのものと言える歴史的な資産として保存活用されています。

私達、「NPOまちづくりネットワーク」は東平田家（旧旅籠）に保管されていた大量の文書、図面の調査を続けてまいりました。

今回、「八木町 近世・近代文書展」を開催し、八木の江戸・明治・昭和の歴史を地域の皆さまに見てもらい、知ってもらって、古文書を身近に感じ楽しんでもらえたらと企画展を開催致します。

今回の企画展を第一歩として、これからも継続開催していきたいと考えておりますので皆様には支援頂きますようお願い申し上げます。

この度の開催にあたり、元天理大学文学部教授 谷山正道先生、今井町 森本育寛様にご指導、ご協力を頂きました事に心より感謝申し上げます。

（稲上文子）